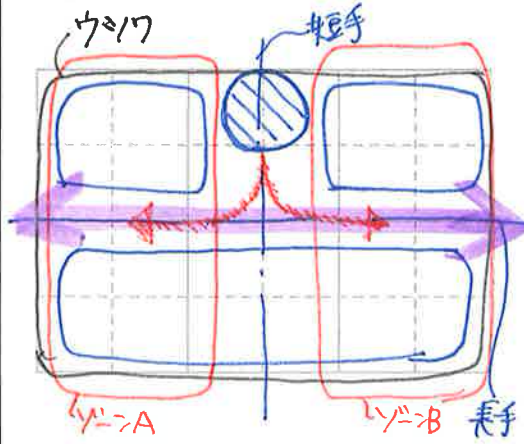


STEP-1 ■ ホリュームをさばく

STEP-2

STEP-3

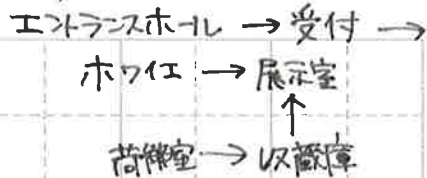
STEP-4



- 長手と長手を考える
- コアは、長手のセンターに打つ。
(ゾニングの方向性を取捨選択するため)
- ローカを走らせる。(動線を押さえる)
- ホリュームを取る。(空間を配分する)
- コアを長手のセンターに打つのは、
ために、ゾニングの方向性が取捨選択。

■ ストーリー (利用者の流れ)

(例) 美術館 → 王道は使用勝ちに、課題文の条件を
3) 主ストーリー



※ 計画以上に、まず最初の体験の
元となる要素

大きなホリュームを取った後に、
ストーリーを考えたから、さらに細かい
ホリュームを取っていき

フリーゾニング

■ 製図試験での出題頻度が高い
部門構成
A部門 + B部門
+ 共用・管理

国語力の
基本まとめ

課題名: 2020.07.24 25年度、ローカの走らせ方をインポート、 P94~P96

氏名: 1/4

STEP-1

ストーリーを考える

・アプローチ・ゾニング (APZ)

■ アプローチの配置

・敷地の外 (主に前面道路) から建築物へ、どこから入るかということ。

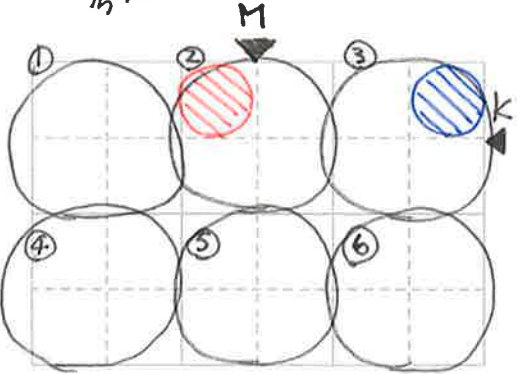
- ・メインアプローチ
- ・管理アプローチ (荷物の搬出入のためのアプローチ)

■ ゾニングの配置

・建築物の諸室 (要求室) を、その使用目的ごとにゾニング分けすること。

■ コアの配置

・建築物全体を6つのフロアで考える。



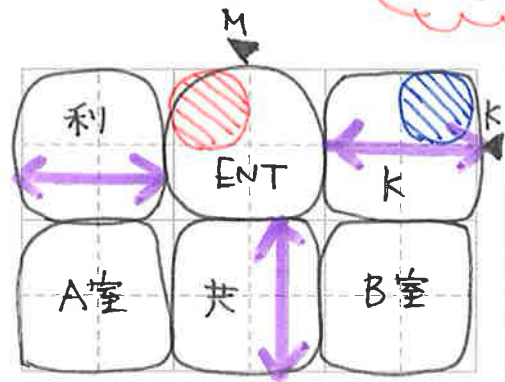
STEP-2

・メイン動線系と大ボリューム

- メイン動線系の計画
- 3コマ以上の要求室の配置

・1つのフロアを4分割し、2コマとして考える。

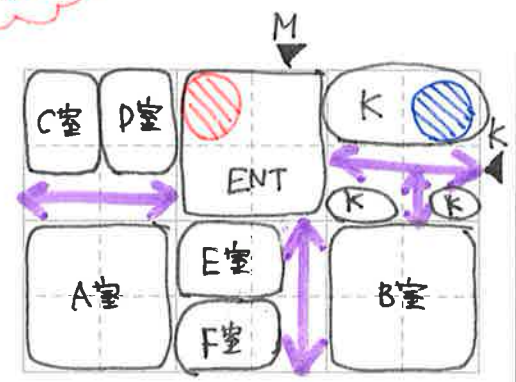
ストーリーに挿入



STEP-3

・中ボリュームを考える。

- メイン動線系の位置の調整と、ボリュームの取り方 (ボリュームをばた)
- 2コマ程度の要求室等の配置
- サブ動線系の計画

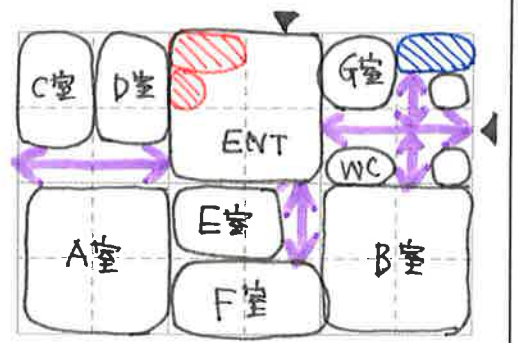


STEP-4

・小ボリューム

- コアの形状と向き
- 1コマ程度の要求室等の配置
- 動線やボリュームの調整

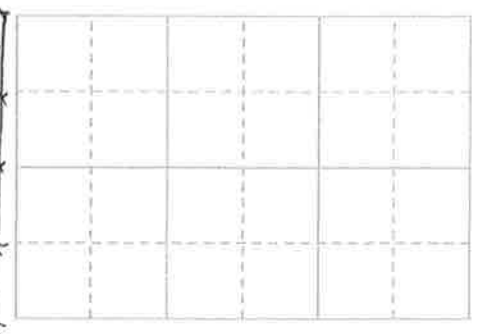
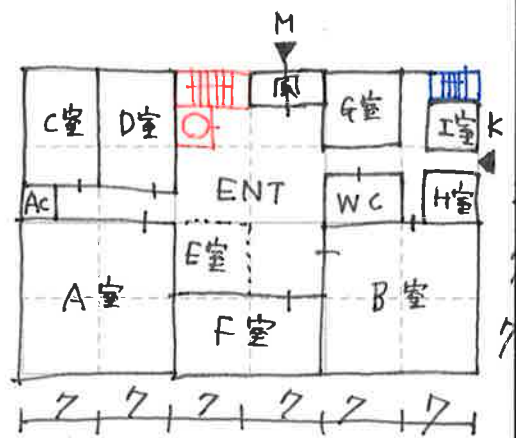
・※0.5コマ程度未満のボリュームは、使い方のイメージだけしておく。



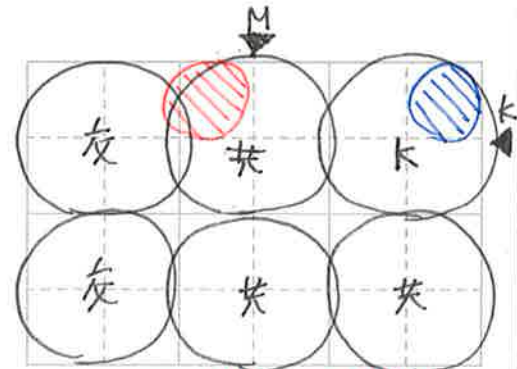
STEP-5

・フロアを整える。

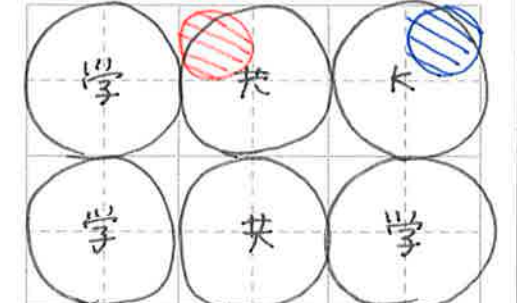
- スリヤ廊下幅の寸法
- 各要求室の床面積
- 未定部分のフロア寸法



STEP-1



- Mは、主要道路から計画することが大原則!
- 部門ごとにソリニグすること基本



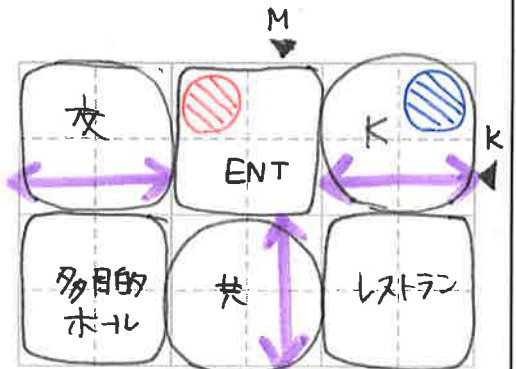
- 共用エレ→利コアを打つ
- Kエレ→Kコアを打つ

まず 建築物のアプローチ
次に ソリニグ (基本は部門別)
あとは コアの西配置

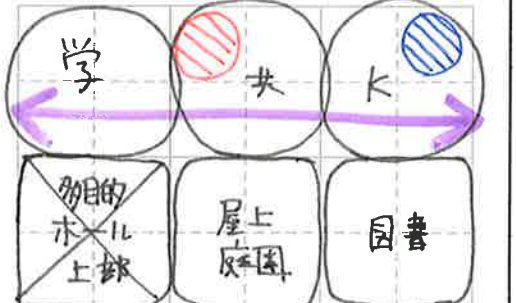
- ここでは、フロア内でのコアの位置は、おおむね必要がない。

STEP-2-1

*ローカ通す。



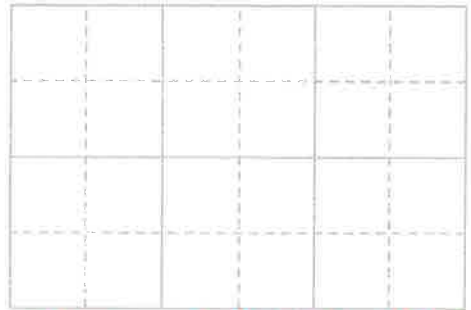
- ボリューム(要本室)の計画よりも、廊下(動線)の計画を先に考える。
→ 上手なフロアの「コジ



- まずは、M=動線
- 1Fは、ENTを起点に考える。
 - 2F~3Fは、2つのコアの配置プロシカが動線で行かざるように計画。
→ M=動線は基本本。他のフロアにも、動線が通るか、接している状態とする。
 - 2Fでは、コアの中心の動線の位置を細く考える必要はない。

STEP-3-2-2

*大ボリューム西配置



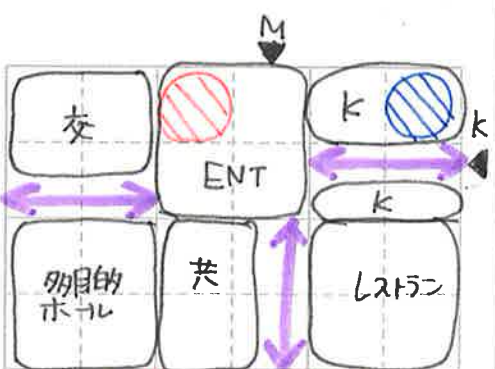
- 大ボリュームの西配置は、フロア全体の影響が大きい。→ 初期で動線は、M=動線を、天井の高い部屋は、上階から下へ影響するので、注意!!

- 基本ボリュームは、矩形
- 辺長比 (長辺÷短辺) はMAX2

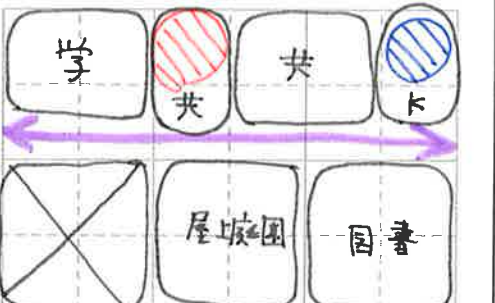
大ボリュームの西配置
• 主動線が通っているコアに接するように考える。
(主動線から直線で通す計画)

STEP-4-3-1

*ローカ位置調整して



- M=動線からの奥行きが、2スパン以内になるように調整。



- 室単位ではなく、まとまったボリュームがどのくらい取れるかを考える。
- M=動線の位置の調整
部分的にズラす時は、コアに接した部分でずらすと、4角は空間とつながる。

★中ボリュームを配置する

★小ボリュームを配置する

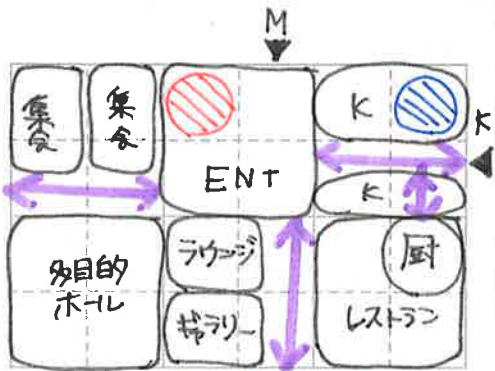
★プランを整える

STEP-3-2

STEP-3-4

STEP-3-5

STEP-4



• 取れたボリュームを分割して
取れたボリューム内で、中ボリュームを
配置。

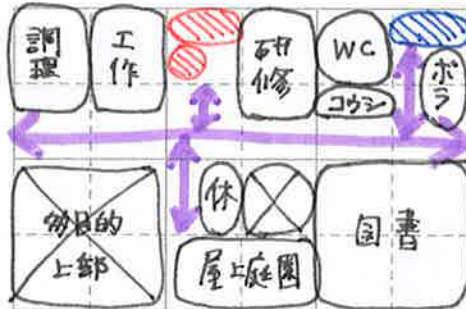
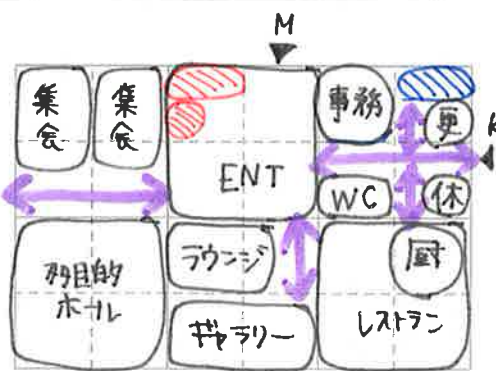


• ボリュームが余る場合
→ 室を小さくする or 吹抜を作る
→ ウィンドウを小さくする

地上に屋外施設
2,3Fにテラスや屋根

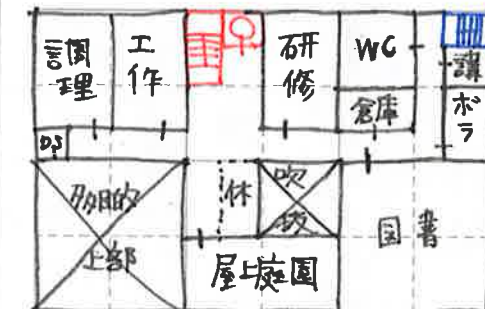
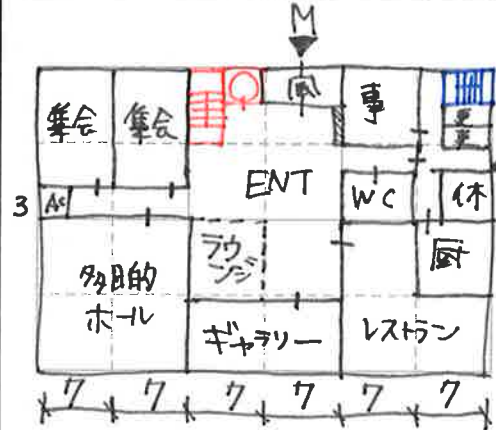
• ボリュームが配置できたら
柱が動線を考える。

• サービス用(ⓐ)と(ⓑ)等の動線に
配慮することが重要



• 柱は、コアの形状と向きを考える。
• 小ボリュームの配置

• 0.5コマ未満のボリュームについては
使い方のイメージだけしておく。



• まず、スポンジ法を入れて。
建築物全体の大きさを算出
→ 外部施設を考慮した
敷地全体の大きさを確認

※ フロアの変更はなし。

上下幅 利用者ゾーン 3m
(標準) K ゾーン 2m

• 具体的に決めていない
ボリュームに必要室を配置する。

課題名: 続き

氏名:

4/4